

記載例 1

(一般向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペンまたは万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください（訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可）。

平成31年 公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用 / 短答式試験全部免除者等用)

—— 必須
----- 該当者
—— 事務局使用欄

受 験 番 号	
財 務 局 財 務 支 局 総 合 事 務 局	第 号 (記入しないこと。)

公認会計士・監査審査会会長 殿		平成 31 年 2 月 日
平成 31 年 公認会計士試験（第Ⅱ回短答式試験）を受験したいので申込みます。		

ふりがな	かいけい じろう	生年月日	〒	〇〇〇-〇〇〇〇
氏 名	会計 次郎 (大きな字で丁寧に記入すること)	明治 大正 昭和 平成 63 年 9 月 17 日 (年齢 30 歳)	住所	東京都千代田区霞が関〇-〇-〇 〇〇アパート 101 号 (TEL (自宅) 〇〇-0000-0000 (携帯) 000-0000-0000)
旧 姓	(改姓年月 年 月)	性 別	男 ・ 女	緊急 連絡先 (上記の住所欄の電話番号以外で緊急の場合等の連絡先(電話番号)を記入し、ない場合は「なし」を○で囲むこと。) (勤務先 (備省先) その他・なし) (TEL 000-000-0000)

(旧姓欄は、受験願書に記載した氏名と添付書類の氏名が異なる場合のみ記入すること。)

短答式試験免除申請	
※免除を受けようとする場合は、いずれかを必ずチェックしてください。	
☐	短答式試験の一部科目について免除を申請します。
☐	短答式試験の全科目について免除を申請します。
(免除項目等の必要事項を受験整理表に必ず記入すること)	

論文式試験免除申請	
※免除を受けようとする場合は必ずチェックしてください。	
☐	論文式試験の一部科目について免除を申請します。
(免除項目等の必要事項を受験整理表に必ず記入すること)	

(旧第2次試験合格者は、「短答式試験免除申請」欄にはチェックしないこと。
ただし、論文式試験について免除を申請する場合は、「論文式試験免除申請」欄にチェックすること。)

(注1) 本願書は、平成31年第Ⅱ回短答式試験に出願するためのものです。平成31年第Ⅱ回短答式試験以降に出願される際に、本願書は使用できませんのでご注意ください。

(注2) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における本人確認のために日本公認会計士協会及び内閣総理大臣の認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号		氏 名 (カタカナ)	②生年月日		③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目										
	①受験局	(記入しないこと。)		年号	年 月 日				経営学	経済学	民法	統計学							
31	012		カイケイ シ・ロウ	3	6	3	0	9	1	7	1	0	4	0	5		1		

短答式試験 免除項目					論文式試験 免除項目					免除通知書番号等			
⑦免除を受ける科目	財 務 管 理 監査論 企業法	⑧免除を受ける科目	会計学 監査論 企業法 租税法	選択科目	⑪旧第2次試験合格証書番号(会計士補等)	⑫短答式試験合格通知書番号(平成29年試験以降合格分)	⑬論文式試験一部科目免除資格通知書番号その1(平成29年試験分)	⑭その他の免除通知書番号	⑮論文式試験一部科目免除資格通知書番号その2(平成30年試験分)	⑩経営学	⑩経済学	⑩民法	⑩統計学
⑧免除要件		⑨免除要件											

⑪～⑮に該当する場合は、公認会計士・監査審査会が発行する免除通知書等のコピーの添付が必要です。

※「受験願書（控）」、「写真票」、「受験票」についても必要事項をもれなく記入（「受験票」の裏面も記入してください）。

●「氏名」及び「生年月日」は、正確に（外国籍の方は在留カードのとおり）誰でも分かるような字で丁寧に記入。

●受験願書に記載した氏名と添付書類（免除通知書のコピー等）の氏名が異なる場合は、戸籍抄本（原本）を添付。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

「申込日」現在の年齢を記入。

「申込日（受験願書受付期間内の日付に限る）」を記入。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

●「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所（都道府県名省略可）を、40文字以内（ハイフン等も1文字）で記入。

●郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入。

●「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。

●本人の連絡先以外の緊急連絡先を必ず記入。

●「住所」欄の「TEL」以外に緊急連絡先がない場合には、「なし」を○で囲む。

右面も必ず記入すること

(会計専門職大学院修了者
(見込者)向け)

(第Ⅱ回短答式試験用 / 短答式試験全部免除者等用)

● 創刊号は、1970年10月15日発行の第1号です。

●「アキ」は、健太の速攻の餌か？と見受け

— 100 —

● 综合题 1: 已知 α, β, γ 是方程 $x^3 - 3x^2 + 2x - 1 = 0$ 的三个根, 求 $\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2$ 的值。

●修了者は、「公認

● 施子昂过书以「各外台各除通知书」○

● 各除海抜之取得(一) 又試驗科目(一)

ふりがな	かいけい	じろう	生年月日		〒	〇〇〇-〇〇〇〇
------	------	-----	------	--	---	----------

〔旧姓欄は、受験願書に記載した氏名と添付書類の氏名が異なる場合のみ記入すること。〕

(注1) 本願書は、平成31年第Ⅱ回短答式試験に出願するためのものです。平成31年第Ⅱ回短答式試験以降に出願される際に、本願書は使用できませんのでご注意ください。

(注2) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

Ⓐ 試験整理者（別添記載例を参照して記入する事）

	受験番号	氏
--	------	---

短策半詳略	危險項目	短策半詳略	危險項目	危險通知書系回鑑
-------	------	-------	------	----------

※「受験願書（控）」、「写真票」、「受験票」についても必要事項をみれなく記入（「受験票」の裏面も記入してください）。

右面も必ず記入すること

記載例 3

(短答式試験合格者及び
短答式全科目免除者向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペンまたは万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください（訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可）。

平成31年 公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用 / 短答式試験全部免除者等用)

「申込日」現在の年齢を記入。

「申込日（受験願書受付期間内の日付に限る）」を記入。

——必須
-----該当者
——事務局使用欄

関東

受 験 番 号
財 務 局
財 務 支 局 第 号
総 合 事 務 局
(記入しないこと。)

事務局使用欄のため、記入しないでください。

公認会計士・監査審査会会長 殿

平成 31 年 2 月 日

平成 31 年 公認会計士試験（第Ⅱ回短答式試験）を受験したいので申込みます。

ふりがな	かいけい じろう	生年月日	〒	〇〇〇-〇〇〇〇
氏 名	会計 次郎 (大きな字で丁寧に記入すること)	明治 大正 昭和 平成 63 年 9 月 17 日 (年齢 30 歳)	住所	東京都千代田区霞が関〇-〇-〇 〇〇アパート 101 号 (TEL (自宅) 〇〇-0000-0000 (携帯) 000-0000-0000)
ふりがな				
旧 姓	(改姓年月 年 月)	性 別	緊 急 連 絡 先	(上記の住所欄の電話番号以外で緊急の場合等の連絡先(電話番号)を記入し、ない場合は「なし」を○で囲むこと。) (勤務先 (備考先) その他・なし) (TEL 000-000-0000)

(旧姓欄は、受験願書に記載した氏名と添付書類の氏名が異なる場合のみ記入すること。)

短答式試験免除申請

※免除を受けようとする場合は、いずれかを必ずチェックしてください。

- ☐ 短答式試験の一部科目について免除を申請します。
- ☒ 短答式試験の全科目について免除を申請します。

(免除項目等の必要事項を受験整理表に必ず記入すること)

論文式試験免除申請

※免除を受けようとする場合は必ずチェックしてください。

- ☒ 論文式試験の一部科目について免除を申請します。

(免除項目等の必要事項を受験整理表に必ず記入すること)

(旧第2次試験合格者は、「短答式試験免除申請」欄にはチェックしないこと。
ただし、論文式試験について免除を申請する場合は、「論文式試験免除申請」欄にチェックすること。)

(注1) 本願書は、平成31年第Ⅱ回短答式試験に出願するためのものです。平成31年第Ⅱ回短答式試験以降に出願される際に、本願書は使用できませんのでご注意ください。

(注2) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における本人確認のために日本公認会計士協会及び内閣総理大臣の認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号		氏 名 (カタカナ)										②生年月日			③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目										
	①受験局	(記入しないこと。)	(カタカナにより左詰めで書くこと。また、姓と名の間は1字あけ、濁点、半濁点は1字とすること。)										年号	年	月	日				経営学	経済学	民法	統計学						
31	01	2	カ	イ	ケ	イ	シ	・	ロ	ウ			3	6	3	0	9	1	7	1	0	4	0	5		1			

短答式試験 免除項目					論文式試験 免除項目									
⑦免除を受ける科目	財 務 会 計 論	管 理 会 計 論	監 査 論	企 業 法	⑧免除を受ける科目	会 計 学	監 査 論	企 業 法	租 税 法	選択科目				
											経営学	経済学	民法	統計学
	1	1	1	1							1			
⑨免除要件	0	5	0	5	0	5	0	5	0	5	1	2		
⑩免除要件														

短答式試験免除と同時に論文式試験の免除を受ける場合には、「⑨免除を受ける科目」及び「⑩免除要件」の免除項目について、上の記載例を参考に記入。

記入しないでください。

※「受験願書（控）」、「写真票」、「受験票」についても必要事項をもれなく記入（「受験票」の裏面も記入してください）。

●「氏名」及び「生年月日」は、正確に（外国籍の方は在留カードのとおり）誰でも分かるような字で丁寧に記入。

●受験願書に記載した氏名と添付書類（免除通知書のコピー等）の氏名が異なる場合は、戸籍抄本（原本）を添付。

●免除通知書等を受け取った者で、免除を受ける場合は、□に✓を記入。

●ただし、免除資格を有する者であっても、今回の試験で一切免除を受けずに受験する場合には記入しない。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

「⑦免除を受ける科目」及び「⑧免除要件」の全ての項目について記入。右の記載例は短答式試験合格者の場合。

【願書の添付書類】

●平成29年試験以降の短答式試験合格による免除を受ける場合は、「公認会計士試験短答式試験合格通知書」のコピーを添付。

●その他の免除を受ける場合には、公認会計士・監査審査会が発行する免除通知書等のコピーを添付。

●免除資格を取得している試験科目のうち、今回の試験で免除を受けずに「受験する科目」があるときは、添付する免除通知書等のコピーに記載された「免除を受けられる科目」のうち、今回「受験する科目（免除を受けない科目）」を必ず二重線で抹消。

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

●「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所（都道府県名省略可）を、40文字以内（ハイフン等も1文字）で記入。

●郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入。

●「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。

●本人の連絡先以外の緊急連絡先を必ず記入。

●「住所」欄の「TEL」以外に緊急連絡先がない場合には、「なし」を○で囲む。

通知書の右上に記載されている6ケタ又は7ケタの番号を、右詰めで記入。

受験整理表は、受験願書の裏面または受験案内(P26～27)に記載されている「コード番号表」を見ながら記入。

右面も必ず記入すること

記載例 4

(旧第2次試験合格者向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペンまたは万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください（訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可）。

平成31年 公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用 / 短答式試験全部免除者等用)

——必須
-----該当者
——事務局使用欄

受 験 番 号	
財 務 局 財 務 支 局 総 合 事 務 局	第 号
(記入しないこと。)	

公認会計士・監査審査会会長 殿		平成 31 年 2 月 日
平成 31 年 公認会計士試験 (第Ⅱ回短答式試験) を受験したいので申込みます。		

ふりがな	かいけい じろう	生年月日	〒	〇〇〇-〇〇〇〇
氏 名	会計 次郎 (大きな字で丁寧に記入すること)	明治 大正 昭和 平成 63 年 9 月 17 日 (年齢 30 歳)	住所	東京都千代田区霞が関〇-〇-〇 〇〇アパート 101 号 (TEL (自宅) 〇〇-0000-0000 (携帯) 000-0000-0000)
ふりがな				(上記の住所欄の電話番号以外で緊急の場合等の連絡先(電話番号)を記入し、ない場合は「なし」を○で囲むこと。)
旧 姓	(改姓年月 年 月)	性 別	緊 急 連 絡 先	(勤務先 (備考先) その他・なし) (TEL 000-000-0000)

短答式試験免除申請 ※免除を受けようとする場合は、いずれかを必ずチェックしてください。 ☐ 短答式試験の一部科目について免除を申請します。 ☐ 短答式試験の全科目について免除を申請します。 (免除項目等の必要事項を受験整理表に必ず記入すること。)	論文式試験免除申請 ※免除を受けようとする場合は必ずチェックしてください。 ☒ 論文式試験の一部科目について免除を申請します。 (免除項目等の必要事項を受験整理表に必ず記入すること。)
---	---

(注1) 本願書は、平成31年第Ⅱ回短答式試験に出願するためのものです。平成31年第Ⅱ回短答式試験以降に出願される際に、本願書は使用できませんのでご注意ください。
(注2) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における本人確認のために日本公認会計士協会及び内閣総理大臣の認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号	氏 名 (カタカナ)	②生年月日	③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目
	①受験局 (記入しないこと。)	(カタカナにより左詰めで書くこと。また、姓と名の間は1字あけ、濁点、半濁点は1字とすること。)	年 号	年	月	日	経営学 経済学 民法 統計学
31	012	カイケイ シ・ロウ	3	6	3	0	1

短答式試験 免除項目	論文式試験 免除項目	免除通知書番号等
⑦免除を受ける科目 財 務 管 理 監 査 論 企業法 会 計 論 会 計 論 1 1 1 1	⑧免除を受ける科目 会 計 学 監 査 論 企業法 租税法 1 1 1 1	⑪旧第2次試験合格証書番号 (会計士補等) * * * * * ⑫短答式試験合格通知書番号 (平成29年試験以降合格分) ⑬論文式試験一部科目免除資格通知書番号その1 (平成29年試験分) ⑭その他の免除通知書番号 ⑮論文式試験一部科目免除資格通知書番号その2 (平成30年試験分)
⑩免除要件 0 6 0 6 0 6 0 6	⑩免除要件 1 1 1 1 1 1	

合格証書番号を右詰めで記入。空欄が生じる場合は、「0」を記入。	
---------------------------------	--

※「受験願書 (控)」、「写真票」、「受験票」についても必要事項をもれなく記入 (「受験票」の裏面も記入してください)。

- 「氏名」及び「生年月日」は、正確に (外国籍の方は在留カードのとおり) 誰でも分かるような字で丁寧に記入。

- 受験願書に記載した氏名と添付書類 (免除通知書のコピー等) の氏名が異なる場合は、戸籍抄本 (原本) を添付。

短答式試験については、合格したものとみなされるため、✓しないでください。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

「⑦免除等を受ける科目」及び「⑧免除等要件」の全ての項目について、右の記載例を参考に記入。

- 【願書の添付書類】
●旧第2次試験の「合格証書」のコピーを添付。

- その他の免除を受ける場合には、公認会計士・監査審査会が発行する免除通知書等のコピーを添付。

- 免除資格を取得している試験科目のうち、今回の試験で免除を受けずに「受験する科目」があるときは、添付する免除通知書等のコピーに記載された「免除を受けられる科目」のうち、今回「受験する科目 (免除を受けない科目)」を必ず二重線で抹消。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

- 「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所 (都道府県名省略可) を、40文字以内 (ハイフン等も1文字) で記入。

- 郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入。

- 「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。

- 本人の連絡先以外の緊急連絡先を必ず記入。

- 「住所」欄の「TEL」以外に緊急連絡先がない場合には、「なし」を○で囲む。

- 旧第2次試験合格者が論文式試験の免除を受けるためには、「論文式試験免除申請」欄の□に✓を記入。

受験整理表は、受験願書の裏面または受験案内 (P 26 ~ 27) に記載されている「コード番号表」を見ながら記入。

右面も必ず記入すること